

2023年6月28日
旭川地区バスケットボール協会 U12 部会
技術普及委員長 中川 明
文責 小谷 颯汰

2023年度 当麻大会総評

当麻大会では、少しずつ制約が緩和され、子どもたちの歓声や保護者の温かい応援があり、従来の楽しいバスケットボールが戻ってきたように感じました。

さて、今大会で見られた課題について述べさせていただきます。

まず、マンツーマンディフェンスについて2つあります。

1つ目は、オンボールディフェンスについてです。ボールマンのディフェンスではマッチアップエリアにおいて、1.5m以内の距離でボールマンにマッチアップしなければなりません。今大会のオンボールディフェンスは、1.5mよりも離れてしまっている場面が多く見られました。ボールマンディフェンスは、シュート・ドリブル・パスを制限しようとするものなので、相手に自由を与えるのではなくハーフアームやワンアームなど、チームとしてどのように守っていくのかを全体で共有していくことが必要となります。

2つ目は、オフボールディフェンスについてです。力強いドライブ突破に対して、次の展開を予測し、ヘルプやりカバリーを効率的に行う場面が見られました。一方で、3線目の選手がボールマンに気をとられてしまい、自分のマークマンを捉えることができている状況が多く見られました。（ただし、明らかに1人のオフenseプレイヤーだけでオフenseを行っている場合には、常に移動しなくても自分のマークマンを少しでも捉えていればよいことになっています。）オフボールディフェンスは、マークマンとの位置関係に合わせて、ポジショニングとビジョンをとることが重要になります。次大会までにディフェンスのポジショニングとビジョンをポイントに練習を重ねていく必要があります。

次に、トラップディフェンスについてです。トラップの三要件が撤廃となり、ボールマンに対して積極的にWチームを行う場面が見られました。トラップディフェンスでは、エリアを占めるのではなく、マッチアップしているかどうか前提になります。連続トラップ時は、人からエリアへ移動するのではなく、ボールの移動に合わせて、人から人へ移動することであれば問題ありません。また、トラップ解消後は、正しくマッチアップし直せるように指導していくことが必要です。

最後に、オフENSについてです。春季大会での課題であった「ファンダメンタル」や「練習・プレーの意図の理解」に加えて「状況判断」の課題が挙げられます。マンツーマンディフェンスの強化に対してのオフENSの状況判断を身に付けなければなりません。例えば、ドライブを行い、ヘルプが寄ってきたときのキックアウト、トラップがきたときの対処、状況にあわせたオフボールマンの動きなど、ディフェンスの状況を見ながら、プレーを選択できる状況判断の力が必要になってくると思います。日々の練習の中で様々な条件付けや系統的・段階的な内容を意識して取り組んでいくことが大切だと思います。

コミッショナーについても、話題があがっていました。「マンツーマン推進の変更点」に伴い、「予測の許容」や「黄色旗の基準変更」などが要因と考えられます。マンツーマンディフェンスの基準規則の第8条に「マンツーマンディフェンスを行っている前提において、予測に基づくプレーとコミッショナーが判断した場合、基準規則違反とは見なさない。」と書かれていますが、今大会では「予測の許容」だけが一人歩きしていたようにも感じます。前段にあるように、目先の勝利だけにとらわれず選手1人1人の育成に目を向け、まずは正しいマンツーマンディフェンスをしっかりと行うことが重要です。5人が自分のマークマンをしっかりと捉えた上で、状況に応じて予測し、ヘルプやリカバリーに行くことを大切にしてほしいと思います。

以上、今大会の総評とさせていただきます。